【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成27年2月26日(2015.2.26)

【公開番号】特開2013-133885(P2013-133885A)
【公開日】平成25年7月8日(2013.7.8)
【年通号数】公開・登録公報2013-036
【出願番号】特願2011-284814(P2011-284814)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｄ　65/097　(2006.01)
Ｆ１６Ｄ　65/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｄ　65/097　Ｂ
Ｆ１６Ｄ　65/097　Ｃ
Ｆ１６Ｄ　65/02　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成26年12月16日(2014.12.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
ここで、舌片６２ｄの先端の接触位置と半径方向軸線６６との距離がＬ１の場合と、Ｌ２の場合について、図７に示す。なお、Ｌ１とＬ２の関係については、図７に示す場合と同様に、Ｌ１＜Ｌ２である。外周側被挟持面４６と舌片６２ｄと、半径方向軸線６６との配置距離がＬ１の場合とＬ２の場合とを比較すると、舌片６２ｄの先端が半径方向軸線６６に近い場合の例に比べ、パッド中心側端部近傍に舌片６２ｄの先端が位置する例では、外周側被挟持面４６とトルクｆの発生方向の成す角が大きくなっていることが解る（角度θ３＜角度θ４）。外周側被挟持面４６とトルクｆの成す角θの変化は、外周側被挟持面４６に対する舌片６２ｄの押し付け方向（食い込み方向）の変化であることより、半径方向軸線６６からの距離をＬ２とした方が、成す角θが大きくなるということが解る。このため、舌片６２ｄの接触点は、半径方向軸線６６に近いよりも、パッド中心側端部近傍とした方が摩擦力が高くなり、抜け止め効果を高めることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図８
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図８】

